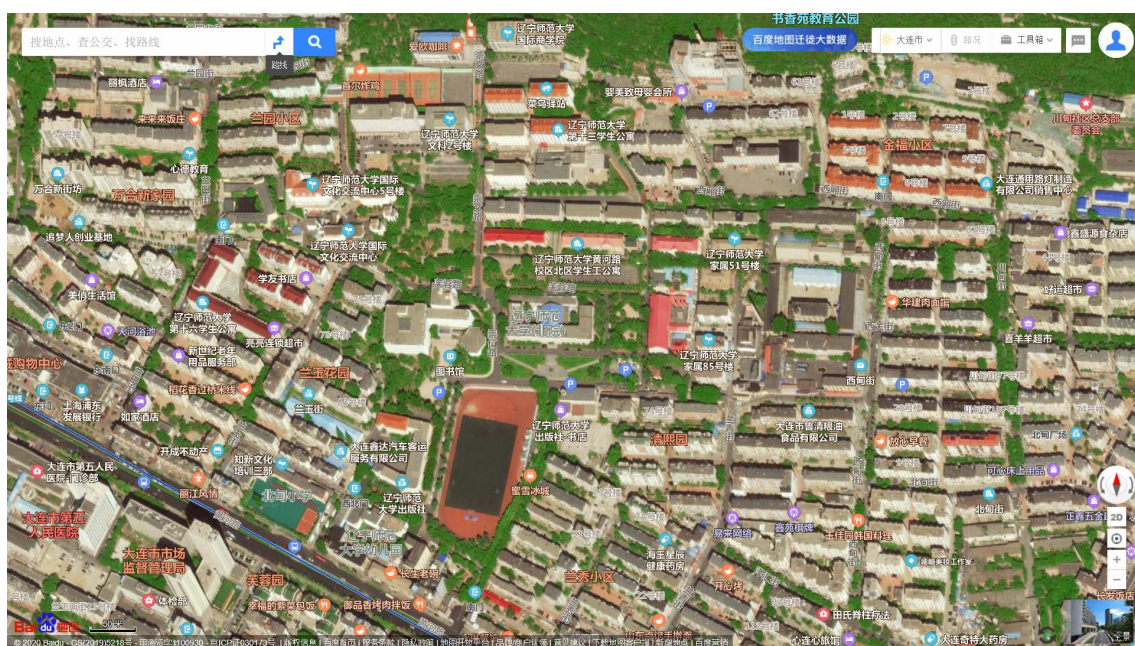


## 遼寧師範大学

2019年3月1日(金)、天気終日晴れ。到着二日目に大学の教室でプレイスメント・テストがあり、今日はその発表日。そのテストはチンプンカンプンだったが、一番易しいクラスから2番目の初級二班に席を与えられた。その足で構内の書店に教科書を買に行く。ところが、特設会場など用意していないので購入はレジで相当待たされそうだった。そこで午後を買うことにして、地下鉄の駅に向かう。10時前に中銀大廈に到着。しかし、私の口座開設の試みは、あっけない幕切れとなった。半年ヴィザの留学生には預金口座はできないとの返事。せつかく日本に番号を問い合わせたのに、無駄になった。これ以降も中国銀行でない銀行では開設が可能だと聞くこともあったが、やめた。煩瑣な手続きをするよりも、その時間を他の事にあてることにした。今後必要とするお金は、日本円で自室内に保管することにした。結局、その後金銭トラブルはなく過ぎた。



遼寧師範大学の北院空撮(百度地図から)。中央の横長建物が本部。左が図書館、右の赤屋根が第一食堂。図書館の左上のオレンジ屋根が留学生宿舍。キャンパスは北に行くほど高台になる。

キャンパスに戻り、教科書購入の前に腹ごしらえ。第一食堂のフードコートへ。コートを囲むように各種料理の店が並ぶ。今回は台湾料理のご飯ものを食べることにした。その支払いの時、学生たちは皆アリペイだの電子決済で済みます。こちらは口座を開設できず現金しかないので、ちょっと不便だが、さすがに現金支払いを拒否されることはなかった。それから改めて書店で教科書を買

入。出版社は前回の留学時と同じ「北京語言大学出版」の定番の教科書。口語とヒアリング、そしてその総合の三冊。しめて日本円にして 3500 円なり。真新しい教科書を見て、学習意欲が湧いて来た。

ところで、私が籍を置くことになったこの遼寧師範大学、どんなところか？ 紹介すると、名前の通り大連を含むこの遼寧省の小中学校等の教員を養成する目的の大学だ。新中国成立間もない 1951 年にこの地に設立された。現在、1200 人近くの常勤教員、1 万 5000 人の学部学生、5000 人の大学院生を擁し、教科に対応する 20 の学部と、何故かアメリカ・ミズーリ州立大学との協同での国際経営学院。そして私が学ぶ国際教育学院も併置されている。学生数から言えば大きな大学だが、大連市内西部の三つのキャンパスに分散しているので、学生が溢れていると言った印象はない。学校前の大通り「黄河路」を挟んで、メインキャンパスが北院。こちらに私の宿舎もあった。黄河路を陸橋で渡ると南院。外国語や理科教育、そして芸術系の学部があり、留學生活後半ではこの音楽系の建物に出入りすることになった。そして、西方の、その名も西山キャンパスには、歴史や情報系の学部があると聞いた。聞いただけで、行くことはなかった。この辺りは、ネットで検索してもわかることだろう。



**遼寧師範大学の学生用第一食堂の内部 カラフルな看板毎に各地の料理を提供する店が並ぶ**

実際の印象はどうかと言うと、遼師大は、日本で言えば地方の県庁所在地にある、俗に言う「駅弁大学」の一つではと思う。日本のそうした大学は、たいてい教育学部が中心にある。これも同じだが、学生はとても地味。そして男女比だが、圧倒的に女子が多かった。その例外が、我々が属した国際教育学院の学生達。世界中からの留学生は男子学生も多く、女子学生の中にも華やかな雰囲気があった。

大学の門は夜間でも閉じられることはなく、しかもキャンパスは大連市民の中層の集合住宅に取り囲まれていた。キャンパス内の運動場は、そうした市民に朝夕開放され、皆が体操やジョギングに来ていた。数ヶ所ある学生食堂と教職員向け食堂にも、そうした市民らしき人の子供連れの姿もあった。社会に開かれた大学と言うことか？周辺の住宅街は、新中国になってからのものだが、街のつくりは戦前に遡ると言う。そしてこのキャンパス用地は、当時は「関東電業」と言う満鉄系の電力会社の従業員が住む社宅が立ち並んでいた所だそう。この地も戦前の日本をルーツにしていた。